

計画体系	項目番号	課題に対する取組	2025年度実施する具体的な取組		2026年度実施する取組
			計画	結果	予定
基本方針1 県内の中核機関としての役割・機能の発揮	1-1	バイオバンク、重点プロジェクトを継続・発展させることで、更なる「総合がんセンター」機能の強化に取り組む。	引き続き周知を行い、外部を含めたバイオバンクの利活用実績を増加させるとともに、外部評価の結果を参考に重点プロジェクトの課題の見直しを行い、総合がんセンター機能強化を図る。	・バイオバンクは、内部の利活用は進み、その中には外部との共同研究で成果の発出に至ったものもあるが、外部からの直接の利用は相談に留まった。 ・重点プロジェクトは、外部評価に基づく課題見直しにより新規課題を含む第3期1年目の6課題を選定した。	・引き続き周知を行い、外部を含めたバイオバンクの利活用実績を増加させる。 ・重点プロジェクトの第3期2年目も課題公募を行い課題の見直しを行うことで総合がんセンター機能強化を図る。
	1-2	病院・研究所の合同セミナーなどを通じて、病院医師の研究参加や病院との共同研究を促進し、更なるエビデンスの発出に取り組む。	全員参加の病院・研究所合同セミナーを少なくとも1回、勤務時間内に開催する。そのために、企画段階から若手医師・研究員を巻き込み、病院と研究所との共同研究での研究費獲得実績がある病院医師の講演や、重点プロジェクト研究の実績共有を行う。	・11月に、全員参加の病院・研究所合同セミナーを開催し、異分野融合領域の分野長の講演や重点プロジェクト研究の情報共有により、病院・研究所の共同研究の促進を図った。	・引き続き全員参加の病院・研究所合同セミナーを年1回以上開催し、共同研究の実施状況や成果報告、研究費獲得状況などの情報を共有することで、さらなる病院・研究所の共同研究の活性化を図る。
	1-3	研究所発の成果を活用し、知財取得、企業のニーズ把握とマッチングによる共同研究開発推進、先進的臨床試験の支援を一元的に行うため、病院と協力して診断・治療の革新につながる橋渡し研究の推進体制の更なる整備に取り組む。	病院と協力して臨床試験に付随した全ゲノム解析研究を継続するとともに、名古屋大学やMDアンダーソンがんセンターと協働した国際治験や橋渡し研究の推進とその支援体制の強化に取り組む。	・病院と協力して全ゲノム解析研究に関して、基本コホート、臨床試験付随コホートともに継続して患者のリクルートができた。	・引き続き、病院と協力して全ゲノム解析研究を実施するとともに、協力体制強化によりリクルート数を増やす。 ・病院と協力してがんの新たな診断・治療法の開発に資する新たな企業との共同研究に取り組む。
	1-4	研究所の持つ情報技術（IT）、人工知能（AI）などの情報解析技術基盤をがんセンター内で共有し、診断・治療の革新につながる異分野融合研究（病理や画像診断支援、治療効果や副作用予測など）に取り組む。	名古屋大学の情報系の連携分野長を招聘し、異分野融合研究領域の研究体制を強化して、引き続き企業や他研究機関との共同研究を含め、研究所、病院におけるAIや機械学習の医学・医療への応用研究を進めていく。	・名古屋大学から異分野融合研究領域に招聘した情報系の連携分野長が大会長を務めた日本バイオインフォマティクス学会に協力した。 ・AIを活用した企業や他研究機関との共同研究を含め研究所、病院でのAIの医療への活用研究を進めた。	・引き続き企業や他研究機関との共同研究を含め、研究所、病院におけるAIや機械学習の医学・医療への応用研究を進める。
	1-5	世界のがん研究の趨勢に対応して、柔軟な研究組織の再編などによる研究力の強化に取り組む。	異分野融合研究領域を核として、研究所内および研究所・病院間の共同研究をさらに活性化させ、イノベーションを創出する研究を展開する。	・異分野融合研究領域の研究紹介をセンター内で繰り返し行うことで、共同研究の促進を図った。	・新たに2名の橋渡し研究分野の分野長と分子腫瘍学の分野長を選出して、これらの分野を核にさらなるイノベーションや研究力の強化に資する体制整備に取り組む。

		1-6	県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価を、県内のがん診療の均てん化や集中化の実態把握と県内格差の是正のための施策提言につなげるとともに、医療機関がベンチマークとして活用できる体制づくりに取り組む。【重点】	県内のがん診療連携拠点病院におけるがん医療評価結果の更新を進め、各医療機関がベンチマークとして活用できるよう配布する。また、愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページで公開可能な統計情報の掲載に関して、国の方針に従い検討する。	・県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価結果を取りまとめた文書の情報更新による2024年度版を発行した。 ・がんセンターホームページの愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページを更新した。	・引き続き、県内のがん診療連携拠点病院におけるがん医療評価結果の更新を進め、各医療機関がベンチマークとして活用できるよう配布するとともに、愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページで公開可能な統計情報の掲載に関して、国の方針に従い検討する。
		1-7	県のがん対策・医療の統合的評価に関し、がん予防や罹患、治療成績、予後情報などに県民が容易にアクセスし活用できるよう、がんセンターのホームページなどを用いて情報発信する体制整備に取り組む。	県民が容易に愛知県のがんの実態情報にアクセスできる体制を構築することを目指し、愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページで公開可能な統計情報の掲載に関して、国の方針に従い検討する。	・引き続き、がんセンターのホームページ上の愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページの整備を進めた。	・引き続き、県民が容易に愛知県のがんの実態情報にアクセスできる体制構築を目指して、愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページで公開可能な統計情報の掲載に関して、国の方針に従い検討する。
基本方針2	高度で良質な医療の提供とエビデンスの発出	2-1	試料、情報の提供に加えて、がんの新規診断・治療法の開発につながる橋渡し研究等の研究デザインについてもバイオバンク利用希望者からの相談に応じるなど、バイオバンク利活用の活性化に取り組む。【重点】	引き続き、企業を含めたがんセンター内外のバイオバンク利用希望者からの研究相談に応じることで、利活用を促進させる。	・内部からの利活用例は着実に増加した。 ・外部からの直接の利活用には至らなかったものの、センター内との共同研究で実施した研究が論文発出に至り、その他にも多数の利用相談に対応した。	・引き続き、企業を含めたがんセンター内外のバイオバンク利用希望者からの研究相談に応じることで、利活用を促進させる。
		2-2	国内屈指のがん予防研究拠点として、バイオバンクに試料と疫学・医療情報を蓄積する事業を継続・発展させるとともに、これらの利活用による病院や他の研究機関、企業とのがんの新規診断・治療法の開発につながる共同研究等を通じて、基礎的研究・橋渡し研究を含む個別の大型プロジェクトへの導出とエビデンスの発出に取り組む。	引き続き、企業を含めたがんセンター内外のバイオバンク利用希望者からの研究相談に応じることで利活用を促進させる。個別に進められている病院や他の研究機関、企業との共同研究を大型プロジェクトに発展させるためのバイオバンクを含めた研究所の体制を検討する。	・内部・外部からのバイオバンクの資料・試料を用いた研究相談に対応した。 ・研究所が病院と協力して行うがんの全ゲノム解析への患者リクルートとその検体管理での経験を通じて、腫瘍試料の収集体制の検討情報の蓄積を進めた。	・バイオバンクを含め国内がん予防研究拠点として蓄積した膨大な資料・試料を活用し、がんの予防、診断、治療に資する大型共同研究プロジェクトの獲得と成果発出を促進する。
		2-3	重点プロジェクトでの基盤的な試料、情報、技術の蓄積を継続するとともに、データベース化によりがんセンター内での共有や利活用を加速し、分野横断的な共同研究並びに他の研究機関や企業との共同研究に発展させ、革新的ながんの診断・治療法の開発につながる新規の大型プロジェクトの立ち上げに取り組む。	継続的に、重点プロジェクトや全ゲノム解析等実行計画参画で得られたデータを用いた共同研究を進め、さらなる研究費獲得につなげる。	・重点プロジェクトや全ゲノム解析等実行計画参画で得られたデータを用いた共同研究が進み、研究成果の発出につながった。	・引き続き、重点プロジェクトや全ゲノム解析等実行計画参画で得られたデータを用いた共同研究を進め、さらなる研究費獲得につなげる。
		2-4	バイオバンクや重点プロジェクトの継続による基盤的ゲノム試料・情報収集の支援などにより、国内がん予防研究拠点を維持・発展させ、更なるエビデンスの発出に取り組む。	継続して、バイオバンクや重点プロジェクトを基盤とした試料・情報・技術の利活用による共同研究推進と成果発出に努める。	・バイオバンク、重点プロジェクトを基盤とした試料、情報を利活用することにより、学術機関との共同研究を促進させた。	・引き続き、バイオバンクや重点プロジェクトを基盤とした試料・情報・技術の利活用による共同研究推進と成果発出に努める。

		2-5	他の研究機関や企業などとの共同研究を含め、がんの一次、二次予防などの先制医療の実現に資するエビデンスの蓄積や検診プログラム・ツールの開発と実用化に取り組む。	がんセンター病院に加えて、他の研究機関や企業との共同研究に対して、検診プログラムやツールの実用化研究の実施に関して働きかける。	<ul style="list-style-type: none"> ・がんセンターから発出したエビデンスが診療や検査のガイドラインに利用された。 ・新がんセンター整備基本計画に合わせて、ハイリスク者の予防検診の検討や自費サーベイランス外来の拡充が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんセンター病院に加えて、他の研究機関や企業との共同研究に対してエビデンスを基に検診プログラムやツールの実用化研究の実施を働きかけるとともに、ゲノム医療推進のための施策の評価に貢献する。
基本方針3	県内の医療や研究の中心となる人材の育成	3-1	独創的かつ学術的、社会的インパクトの高い研究成果の発出促進のために、特に若手研究者が国際学術雑誌や国内外の学術学会で発表する機会の創出や支援に取り組む。	若手研究者の学術活動を所内セミナーや研究所報告会で活性化させるとともに、学会での発表機会創出を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオインフォマティクスの国際学会など発表に選ばれることが困難な学会での発表を含め、積極的な若手研究者の学会発表機会の確保を達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、若手研究者の学術活動を所内セミナーや研究所報告会で活性化させるとともに、学会での発表機会創出を促す。
		3-2	若手研究者の育成に向けて、名古屋大学の連携大学院としての積極的な大学院生受け入れや、包括連携を結ぶ愛知医科大学を含む他機関からの任意研修生受け入れの更なる強化に取り組む。	異分野融合研究領域でのリサーチレジデントや研究員の受け入れを含めて、他機関との連携を強化し、さらなる若手研究者のリクルートに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・所長、分野長が個別に共同研究先などに大学院生や任意研修生の派遣を打診するなど、受け入れの促進に取り組んだ。 ・リサーチレジデントや任意研修生の継続的な受け入れによる若手研究者のリクルートを達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな分野長を迎える分野を中心に、大学院生やリサーチレジデントなどさらなる若手研究者のリクルートに努める。
		3-3	新たな研究医の人材確保と育成のために、病院のレジデントと研究所のリサーチレジデントをシームレスにつないだ研究医育成コースなどの体制構築に取り組む。	AIを用いた画像や病理診断など、医師に親和性の高い研究を通じて、研究所で研究を行う病院医師の増加を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究医育成コースの構想は希望をする医師が少なく進んでいないが、AIやバイオバンクの資料・試料などを用いて研究所で研究を行う病院医師が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、情報系の分野を中心に実施するAIを用いた画像や病理診断など、医師に親和性の高い研究を通じて、研究所で研究を行う病院医師の増加を促進する。
		3-4	研究員やリサーチレジデントのキャリア形成につなげるため、これを積極的に支援する体制構築に取り組む。	継続的に、キャリア形成サポートのための教育機会の提供やセミナー開催を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育歴を確保するための外部教育機関での講義機会の提供や共同研究につなげるための研究発表の機会の提供を継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、キャリア形成サポートのための教育機会の提供やセミナー開催を行う。
		3-5	研究所に、ゲノム疫学研究や臨床との橋渡し研究の付随研究の国内研究拠点を整備することで、他機関と連携した研究資金の獲得を伴う大型プロジェクトの推進に取り組む。【重点】	継続して、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとの共同研究やその他の研究機関との連携を通じて橋渡し研究を推進するとともに、がん予防研究、ゲノム疫学研究拠点整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとの共同研究は、終了した1件の後継課題を1件を選定し開始した。 ・ゲノム疫学研究の国内拠点としての試料・情報の収集整備をがん予防研究分野を中心に進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、MDアンダーソンがんセンターとの共同研究やその他の研究機関との連携を通じて橋渡し研究を推進するとともに、がん予防研究、ゲノム疫学研究拠点整備を行う。
基本方針4	取組の見える化	4-1	研究活動や成果、がん医療の未来への貢献などに関する発信力をより高めるために、ホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルでの動画配信などを活用して、幅広い層に対する情報発信に取り組む。【重点】	継続してホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルを用いた情報発信を行い、積極的にプレスリリースするなど発信の頻度を増やすとともに、内容の充実を図ることによりフォロワー増加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルを用いた情報発信を継続した。 ・プレスリリース案件は少なかったが、坂口大阪大学特別栄誉教授のノーベル賞受賞を糸口に、当センターでの受賞記念講演会開催等をプレスリリースするなど積極的な研究所の広報に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各種媒体を活用した情報発信やプレスリリースなどでの発信を行うとともに、その内容の充実を図ることによりフォロワー増加を目指す。

		4-2	県民のがんやがん研究への理解の促進とともにバイオバンク事業・臨床研究などへの研究参加の意識を更に高めるために、高校・大学への出張講義、親子で参加できる実験体験、サイエンスカフェ、参加者のがん予防の意識向上を目的とした公開シンポジウム、がんサバイバーを招いたチャリティコンサートなど、多彩なアウトリーチ活動の企画と実施に取り組む。	高校生実習を継続するとともに、公開講座の企画充実にも貢献する。	・高校生実習に加え、本年度のセンター公開講座での講演、2026年2月4日のワールドキャンサーデーのライブセッションでの講演、愛知県内の小中学校でのがん教育出張講義等に貢献できた。	・引き続き、高校生実習を継続するとともに、公開講座の企画充実にも貢献する。
基本方針5	持続可能な安定した経営基盤の確立	5-1	研究所や病院全体として新規研究領域の開拓や大型研究資金を獲得するために、がんセンター内の共同研究推進、試料・情報・技術リソースの共用化、情報解析のための国内計算機基盤（スーパーコンピュータ）の共同利用や教育の整備、研究分野横断的な共同研究の活性化に取り組む。	異分野融合研究領域を核に、研究所、病院で広くイノベーションを創出する新規研究領域の共同研究創出を促進し、研究資金獲得を目指す。	・外部スーパーコンピュータを継続利用するとともに、機器の利用促進のための技術講習会を開催するなど、研究機能向上に努めた。	・新たに分野長が着任する分野を中心に研究所、病院で広くイノベーションを創出する新規研究領域の共同研究創出を促進することで、研究資金獲得を目指す。
		5-2	途切れることなく、最新のがん研究に必須となる高度精密機器の充実、整備と動物実験施設の充実・管理体制の強化に取り組む。【重点】	継続して、間接経費の効率的運用に取り組むことにより、共通機器室、動物実験施設の整備を進める。	・間接経費の効率的運用により、動物実験施設の改良、修繕や、共通機器の整備を行うとともに、研究技師による管理体制の強化を行った。	・引き続き、間接経費の効率的運用に取り組むことにより、共通機器室、動物実験施設の整備を進める。
		5-3	外部研究費における間接経費の柔軟かつ計画的な運用を可能にし、共同利用機器の保守・修理、共同利用ソフトウェアや計算機環境の整備を含む基盤的な研究インフラ整備に取り組む。	継続して、間接経費の効率的運用に取り組むことにより、ソフト・ハードインフラ整備を進め、充実した研究環境の維持・向上に努める。	・動物実験施設、共通機器室の機器の更新や新規の整備など、間接経費の効率的運用によるソフト・ハードインフラの整備を進めた。	・引き続き、間接経費の効率的運用によるセンター全体のソフト・ハードインフラ整備を進め、充実した研究環境の維持・向上に努める。
		5-4	がんセンターの機能を最大化するため、連携する名古屋大学などの、共同利用機器、研究のマッチング機能、知財関連の支援の活用により取り組む。	継続してがんセンターや名古屋大学の共同利用機器の利用を進めて研究力の向上を図るとともに、異分野融合研究領域への研究員・リサーチレジデントのリクルートを進めて異分野融合研究を強化する。	・名古屋大学の質量分析機の利用を推進するとともに、異分野融合領域でリサーチレジデント1名を雇用し、さらに研究員・リサーチレジデントのリクルートを進めた。	・引き続き、がんセンターや名古屋大学の共同利用機器の利用を進めて研究力の向上を図るとともに、異分野融合領域の研究力強化のための体制づくりを行う。